

協力事業

令和6年度

7月 ふれあい祇園まつり

11月 地域交流センター文化祭

12月 そば打ち教室

み か げ

笠間市社会福祉協議会



稲田支部

第24号

令和7年3月21日発行

発行 笠間市社協稲田支部
 支部長 宮崎 守
 編集 稲田支部広報委員会
 印刷 大塩企画



エントランスにて

県外研修会

— 国立科学博物館 —

10月17日(木)、見聞を広げると共に地域の交流を深めるため、県外研修会を実施しました。参加者は39人でした。

稲田駅前を7時30分に出発し、国立科学博物館、東京都庁展望室、築地場外市場を見学、稲田駅前に16時40分帰着という行程でした。

国立科学博物館は1877年(明治10年)に創設された、日本で最も歴史ある博物館の一つです。490万点以上の標本・資料が保存され、約2万5000点が常設展示されています。

広大な上野公園内の敷地に迷子になりそうになりながらも、等身大のシロナガスクジラの迫力あるモニュメントが出迎えてくれました。そして玄関前で集合写真の記念撮影です。

地球館では、地球環境の変動の中で生命が誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきた道のりなど、日本館では、日本列島の自然と生い立ち、生き物たちの進化、日本人の形成過程などが展示されています。かなり難しい展

(次ページへ)

(前ページより)



和気あいあい

示・説明もありましたが、360度シアターや映像、恐竜の骨格標本や化石、数多くの動物標本、実物展示などがあり、興味深く見学することができました。



恐竜の骨格標本

その後、東京都庁展望室に行き、45階の202mの高さから、東京の街並みを一望しました。東京スカイツリー、東京タワー、明治神宮、東京ドーム、オリンピック競技場なども見ることができました。晴れた日には富士山もくっきりと見えるそうです。また高層ビル群を眼下に眺め、高さを実感しました。



すし三昧にて

昼食は築地場外市場の「すし三昧」で、にぎり寿司のセットをいただきました。新鮮でおいしいお寿司に参加者の会話ははずみしました。昼食後は、場外市場の散策、見学、お土産の品定めとそれぞれに楽しい時間を過ごし、帰路につきました。

友愛訪問



1月19日(日)、80歳以上のひとり暮らし高齢者の健康状況の確認及び長寿のお祝いのため、友愛訪問を実施しました。今年度の稲田地区の対象人数は、昨年度と同じ53人でした。

昨年の12月22日(日)、社会福祉協議会稲田支部役員4人と民生委員・児童委員6人が地域交流センターいなだに集まり、実施計画を立てました。

社協稲田支部役員と民生委員・児童委員がペアとなり、お祝いの

ふれあいと見守り

紅白まんじゅうを手渡しして、長寿のお祝いをすると共に長年のご労苦をねぎらい、併せて健康状況の確認をしました。ご家族や地域社会のため長年尽くしてこられた皆様には、改めて敬意と感謝を申し上げます。

皆さん、「お祝いをしていただきうれしい」「地域の方にはよくしてもらっている」「地域の方に見守られありがたい」と感謝の言葉を述べられていました。これからも心豊かに長生きされますように。



地域と子ども園・学校の連携を深める！



一緒に昔遊び

稲田地区でも子ども園、小・中学校では園児・児童・生徒数が私たちの頃と較べて大きく減っています。このような状況下、地域と子ども園・学校との連携は、地域



クラス発表

の子どもを育てる上でますます重要なものとなっています。

子ども園では12月17日(火)地域の方も参加しての「地域みんなで交流会」が開かれました。クラスごとの歌と遊戯の発表、ミニコンサート、脳トレゲーム、昔遊び、



よういっドン！

稲田神社の田村みさ子さんによる「稲田の今昔物語」のお話がありました。地域の方と一緒にそして見守られながら、園児の元気いっぱいの発表や活動が行われ、すばらしい交流会となりました。

小学校では、11月28日(木)持久走大会が実施されました。学校

下の一般公道がコースのため、駐在所の方や多くの保護者、そして地域のボランティア43人の方のご協力をいただき、12か所で安全確保や交通整理に努めました。沿道には多くの地域の方の熱い応援の姿があり、児童にとって何よりの励みになったことでしょう。



がんばれー！

5月18日(土)開催の中学校スポーツフェスティバルでは、地域の方と一緒に澁刺とした姿で石切音頭を踊る姿が見られました。また心のこもった湯茶の接待もうれしいものでした。7月28日(日)のふれあい祇園まつりでは、吹奏



地域の方の前で

楽部の演奏とよさこいソーラン、神輿渡御で会場を沸かせてくれました。ボランティアとして参加し、小さな子の面倒をよくみてくれた中学生もいました。

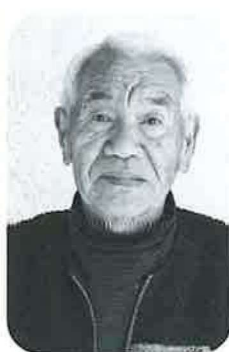


一緒に石切音頭

この人に聞きました！

ふれあい祇園まつり実行委員長

篠田 喜代司さん



稲田神社夏まつりの祭礼に合わせて、稲田の夏の風物詩「ふれあい祇園まつり」が、毎年7月下旬の日曜日に開催されています。今回はその実行委員長にお話を伺いました。

Q ふれあい祇園まつりはいつから始まったのですか？

平成10年、それまで行っていた鯉まつりの後継として始めたのが最初で、昨年で27回目です。

Q そのきっかけは何ですか？

笠間市のまちづくり教室を第1期生として受講し、地域の町おこしとして、河川の浄化や地域の活性化を図るために稲田鯉まつりを立ち上げました。その後鯉ヘルペス問題が発生し鯉まつりの継続が難しくなったため、従来の鯉まつりを発展的に解消する形で始めた

のがきっかけです。

Q その内容は？

昨年は3部開催で、第1部が子ども対象の射的や輪投げ、ペットボトルボーリングなどです。ヨーヨーや綿飴、ポップコーンは無料でした。

第2部は、稲田中吹奏楽部の演奏会、小・中学生有志のよさこいソーランです。

第3部は稲田神社宮司のご祈祷の後、開会セレモニー、中学生の神輿渡御、石切音頭パレード、地元歌手山口由美さんのミニコンサート、カラオケ大会です。

Q 心がけていることは何ですか？

祭りを通して人づくり、心づくり、地域づくりに心がけています。人とのコミュニケーション、絆づくりが大切だと思っています。

Q よかったこと、うれしかったこととは何ですか？

実行委員が増えたこと、年代を超えた人と人とのつながりができたことです。

Q 活動のご苦労はありますか？

開催に至るまでの準備日時の設定や段取り、準備、暑さ対策など

課題はありますが、みんながよく協力してくれるので苦労と思ったことはありません。

Q 今後の抱負を教えてください。

今後関係者の皆様のご協力をいただきながら、地域の絆づくり、活性化を進めていきたいと思っています。

篠田さんは奥様、お子さん、お孫さんの三世大家族。石材業を営むかたわら、県石材業連合会理事、稲田神社総代、中央ブロック・笠間市明るい社会づくりの会事務局長、消防団後援会長などの要職を務めている。ボランティアと野菜作りが趣味。



実行委員長あいさつ

編集後記

笠間市社協では、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、「ささえ合いの地域づくり」に力を入れて取り組んでいます。地域ごとに話し合いの場を設け、地域課題の共有や解決に向けた取り組みの検討を行っています。

少子・高齢化の中、稲田地区でも地域とこども園・学校の連携はますます重要になってきます。今号では交流会、持久走大会、体育祭、ふれあい祇園祭りでの連携を特集しました。地域の皆様、今後ともご協力をお願いいたします。

広報委員

梅原 守

椎名 芳男

潮田 浩

